



独立行政法人 国立病院機構東徳島医療センター

〒779-0193 徳島県板野郡板野町大寺字大向北1-1

TEL 088-672-1171 FAX 088-672-3809 URL <http://www.etokushima-mc.jp/> e-mail 515sy01@hosp.go.jp



新任のご挨拶



院長 木村 秀

本年4月より長瀬院長の後を引継ぎ東徳島医療センターの院長に就任いたしました。ただ病院名は東徳島医療センターと言われるより、32年間使われた板西療養所の方が私には馴染みがあります。まだ医学生であった頃、旧2内科に入局したての兄に誘われて板西療養所の重症心身障害児施設を見学したことがあります。医学部に入りたての私にとっては初めての体験で、その時のことは40年たった今でもしっかり記憶に残っています。

昭和53年に徳島大学医学部を卒業し、旧第二外科に入局し、井上教授のもとで研修し門田教授の指導で学位を取得し、平成3年に小松島赤十字病院、今の徳島赤十字病院に赴任いたしました。呼吸器はもちろん消化器外科も担当しつつ、25年間急性期病院の外科を引っ張ってまいりました。

私にとって療養所といえば、今も心に残る先生

がいます。大学で臨床のチーフを終え、何でも出来ると勘違いしていた生意気な外科医であった頃、その先生から医師は患者さんの病気だけをみているのではない、その方の人生にかかわっているんだよと、諭されたことがあります。3分間診療しかできない大病院では、決して教えてもらえない医師としての心構えでした。

今病院を運営していくのは難しい時代になっています。病院にまで医の倫理ではなく企業の経営理論が入り込み、競争社会の中で昔のようにのんびり病気を治していけなくなりつつあります。

私は急性期病院で出来なかった、サービスや治療をこの病院で出来たらと考えております。それにはスタッフの協力はもちろん、地域で開業されている先生方や、患者さんの協力が必要です。まだまだよちよち歩きの院長ですが、職員と共に目標に向かって努力していきたいと考えております。末長いご支援をお願いいたします。

看護の日

記念行事のご案内

～心と体を健康に～

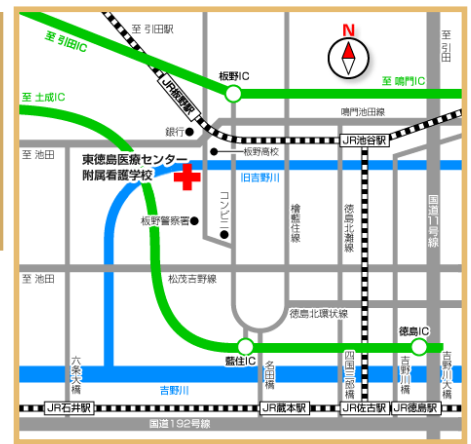
当院では、今年も「看護の日」の記念行事を行います。

看護部では、地域の方々が自分の体の状態を知り生活習慣病や骨粗鬆症に関心をもって頂きたいと思い「心と体を健康に」をテーマに看護の日の記念行事を5月11日に開催します。

当日は、健康チェック・身体計測・骨密度測定・手のマッサージ・阿波踊り体操などを計画しています。地域の方々との交流の機会としたいと思っています。リラクスクーナーも設けておりますので、ぜひお立ち寄り下さい。スタッフ一同、皆様のお越をお待ちしております。

(看護部実行委員会／大久保・一本松)

【日 時】 平成28年5月11日(水)
9:30～15:00
【場 所】 東徳島医療センター
(附属看護学校、学生食堂)
【参加費】 無料



各種計測

血圧、身長、
体重、体脂肪、
基礎代謝、
骨密度

骨密度測定

看護師

かかとで検査
します

運動のこと

理学療法士

食事のこと

管理栄養士

リラクスクーナー

お薬のこと

お薬手帳を
お持ち下さい

薬剤師

健康相談

看護師

透析室の 災害対策について

血液透析は、水道や電気などのライフラインを必要とする医療です。

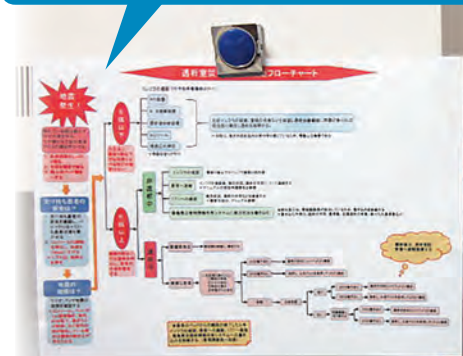
地震災害などの規模によっては、ライフラインに大きな影響を受けることも考えられます。地震発生直後は気が動転しており、不必要な被害を出さないためにも日頃からの対策や訓練、マニュアルの整備が必要です。

透析室では、地震災害時に備えスタッフがスムーズな行動がとれるようフローチャートを作成しています。また、年に1度、患者参加型の災害伝言ダイヤル訓練を行ったり、他施設での透析が必要になったときのために、透析条件を記入したカードを財布や災害袋などに入れて

持っておくようにお願いしています。

みなさんも、年に1度は、家族みんなで災害時の対策の見直しをしてはいかがでしょうか。

いつ襲ってくるかわからない大地震などの災害時に備え、スタッフがスムーズに行動がとれるようフローチャートを作成、机上訓練などを行っています。



透析室災害対策



災害時持ち出し袋内のガーゼや酒精綿などの点検、補充を1回／3カ月実施し、災害などの非常時に普段から備えています。

＜透析条件＞			
治療方法	治療サイクル () / W	時間 / 回	
ダイヤライザ	血液流量	ml / min	
適正体重	kg ()	血液型	型 Rh (+ -)
特記事項			

災害時伝言ダイヤル
(災害時透析室の状況を確認する場合)
1 7 1 に電話をかけます。
(音声がかかります。)
2 をダイヤルします。
(音声がかかります。)
0 8 8 - 6 7 2 - 1 1 7 1
上記をダイヤルすると透析室の情報が流れます。

大規模な地震が発生した場合の患者様への情報提供手段として「171」災害伝言ダイヤルを活用し、年1回、患者参加型訓練を実施しています。

「171」災害伝言ダイヤル訓練実施のお知らせ！！

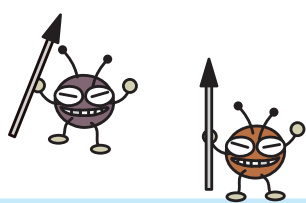
◆実施日 : 11月15日(木)
◆実施時間 : 午後0時より12時

* 伝言ダイヤル利用方法は、携帯用人工透析カード内面のクイックマニュアルを参照してください。
* 今年も、簡単な伝言内容を後日確認したいと思っておりますのでご協力よろしくお願いいたします。



災害時などに他施設での臨時透析がスムーズに行えるよう透析条件などの確認を毎月行っています。





ピロリ菌 Q & A



(消化器内科／津保 友香)

Q 1. ピロリ菌って何ですか？

A 1. ピロリ菌とは胃の粘膜に生息する菌であり、子供の頃に感染し、一度感染すると多くの場合除菌しない限り胃の中に居続けます。50歳以上では半数以上の方が感染しています。

Q 2. ピロリ菌はどうして悪いのですか？

A 2. 慢性胃炎、胃癌、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、特発性血小板減少性紫斑病などの病気の原因となります。

Q 3. ピロリ菌はどこから感染するのですか？

A 3. 感染経路はまだはっきりと解明されていませんが、ヒトからヒトへの経口感染であると推定されています。幼児期の胃の中は酸性が弱く、ピロリ菌が生き延びやすいため、離乳食が開始される生後4～8か月の時期の保護者による離乳食を噛んで与える行為が原因と考えられています。

Q 4. ピロリ菌に感染しているかどうかの検査方法は？

A 4. まずは除菌療法の対象となる病気があるかを確認します。内視鏡検査やバリウム検査で胃潰瘍、十二指腸潰瘍、慢性胃炎と診断されてからピロリ菌に感染しているかどうかを調べます。
ピロリ菌に感染しているかどうかの検査としては、内視鏡で組織をとる検査（迅速ウレアーゼ試験、鏡検法、培養法）と内視鏡を使用しない検査（血液抗体検査、尿素呼気試験、便中抗原検査）があります。一部、胃薬などの薬を休薬する必要がある検査もあります。

Q 5. 以前、胃カメラで慢性胃炎と診断されましたが、除菌治療はしていないのですがどうしてなのでしょう？

A 5. 慢性胃炎で健康保険による除菌治療が可能となったのは2013年2月21日からであり、それ以前はできませんでした。

Q 6. どうやって除菌するのですか？

A 6. 抗菌薬2種類、胃薬1種類を1日2回、1週間内服します。飲み終わって4週間以上経過した後に除菌できているかどうかの検査を行います。

Q 7. 1週間、薬を飲んだら絶対に除菌できるのですか？

A 7. 1回目の除菌療法の成功率は75%です。1回目の除菌に失敗した場合は再び7日間かけて薬を飲む2回目の除菌療法を行います。2種類の抗菌薬のうち1つを初回とは別の薬に変えて再び除菌を行います。2回目の除菌療法は正しく薬を服用すれば85%で成功します。
飲み忘れ、喫煙、飲酒は除菌率を下げるため、治療中は禁煙、禁酒が必要になります。

Q 8. 副作用はないのですか？

A 8. 抗菌薬を内服するため下痢・軟便・味覚異常を認めることがあります。この場合は減量や中止をせずに7日間内服し続けます。治療が終われば症状も改善します。
腹痛、発熱、発疹などの症状が出現した場合には主治医と相談し、中止を検討する必要があります。
また、除菌成功後に胃液の分泌が正常に戻り、逆流性食道炎で胸焼けなどの症状が出現することがあります。症状が強い場合には主治医と相談し、胃酸を抑える薬などを飲む必要があります。

Q 9. 除菌に成功したら再感染する可能性はあるのですか？

A 9. 除菌治療成功後の再感染率は年間1%未満と報告されています。除菌成功後の再感染は極めて稀です。

Q 10. 除菌に成功したら胃癌の心配はしなくていいのですか？

A 10. 間違いです！！除菌療法により、胃癌、胃潰瘍、十二指腸潰瘍などの病気のリスクは下がりますが、ゼロにはなりません！！除菌治療をした後も1年に1度、内視鏡検査やバリウム検査などで定期的な検査を受け、早期発見・早期治療ができるようにしましょう。

糖尿病教室のごあんない



日時 2016年5月10日(火) 午前11時～午後2時

場所 第二会議室(二階)

内容 『日常生活の注意点について』
『運動習慣のある方必見！』

看護師

運動を効果的にサポートする食事とは』 管理栄養士

※試食会(400円／材料費込) 筆記用具をお持ちください

● 看護学校便り ●

地域に愛される看護学校事業

平成28年2月7日（日）に当校で「地域に愛される看護学校事業」を開催しました。

午前中は、当校の卒業生7名と1学年を対象に日々の看護を語る会を行いました。内容としては、看護の振り返り・心に残る患者・心に残る看護・看護職の悩みについて先輩看護師から後輩の1年生にメッセージをいただきました。また、臨地実習で患者さんを受け持ったことがない1年生にとって卒業生の先輩は憧れであり、どのような患者さんに会い、どのような看護を実践してきたのか興味津々であり、日頃疑問に思っていた事が語る会を通して明確になったようです。1年生からは、「先輩の話を聞いて看護師になりたいという思いが強くなった」や「看護師は素晴らしい仕事だと再認識した」という言葉がかけられました。また卒業生からは、「こうやって看護を語る事で自分が実践してきた看護について振り返る機会となった」「まだまだ未熟で看護師という仕事は大変と痛感する毎日だけど、諦めずにこれからも頑張っていきたいと思う」という言葉が聞かれました。

午後からは、「看護の心伝えます」講座を小学生対象に行いました。実施内容は、看護とナイチンゲールの話・看護体験・看護の記念樹作成を行いました。看護とナイチンゲールの話では、ナイチンゲールが実際に行ってきたこと、現在の看護にどう繋がってきたのかを小学生の皆さんに聞いてもらいました。看護体験では、臨場感を少しでも体験してもらうため、実際に白衣に着替えてもらいました。そして、手洗いの実践や心臓音聴取実習用の人形（フィジコ）からの心音聴取、ベビー人形を用いて新生児看護を体験してもらいました。小学生の皆さんより「本物の看護師さんになったみたいで楽しかった」「看護師の仕事が少し分かった」「将来、看護師になりたいと思う」と太陽のような笑顔で話をしてくれました。卒業生7名も看護技術体験に参加し、実際に採血シミュレーターで演示をしてもらったり、車椅子移乗では車椅子操作時の留意点や方法について説明してもらいました。卒業生は「臨床では自分が教えてもらっている立場だけど、今日はこうやって自分が説明する立場で人に教えられようになったので少しは成長できたのかな」と照れ笑いしながら話してくれました。

地域に愛される看護学校事業を通して、卒業生が看護師として成長している姿を見ることができました。看護の記念樹にも記載されていましたが「患者さんの思いを大切に」と記載されている通り、対象の思いを大切に看護師になるよう教員一丸となって成長を見守っていききたいと思います。
(教員／竹内 友美)

